

イチジク「ジディ」台接ぎ木苗の早期育成法

【背景・目的・成果】

連作により樹勢低下した園地では強勢台木「ジディ」を利用した苗木への改植が行われています。しかし、接ぎ木苗の育成には台木養成を含めて2年かかるため、早期育成法が求められています。そこで、台木と穂木を接いだ「接ぎ穂」を挿し木する「接ぎ挿し法」と加温ハウスでの育苗で、良質な接ぎ木苗を1年で育成する方法を開発しました。

接ぎ挿し法を用いた「ジディ」台接ぎ木苗の育成手順

STEP① 穂木の採取 〈1月中旬頃〉
登熟した台木、穂木品種の休眠枝を採取

STEP② 接ぎ挿し木 〈1月下旬～2月上旬〉
・台木(15cm)へ穂木(1芽)を切り接ぎ、「接ぎ挿し穂」を作成(図1)。
・無肥料培土(ピートモス:パーライト:赤玉土ほか=5:2:3)を5号ポットに充填し、深さ10cmで挿し木する。

STEP③ 加温一次育苗 〈接ぎ挿し木後～4月上旬〉
・挿し木始めの2週間はビニール被覆(日中は解放して換気、灌水週1回)をして萌芽をそろえる。それ以降は被覆を除去。
・培土の乾燥に応じて3日おきから毎日灌水する。
・4月上旬までは加温ハウス内(夜間18℃以上、日中20～30℃)で管理(図2)。

STEP④ 無加温二次育苗 〈4月上旬～11月頃〉
・挿し木から50～70日で稚苗を7号ポットに鉢上げし、二次育苗(無加温)する。
・培土の乾燥に応じて3日おきから毎日灌水する。
・11月頃には新梢長が長く、節数の多い、新梢基部径10mm以上の苗が**90%以上の割合**で、効率的に生産できる(表)。

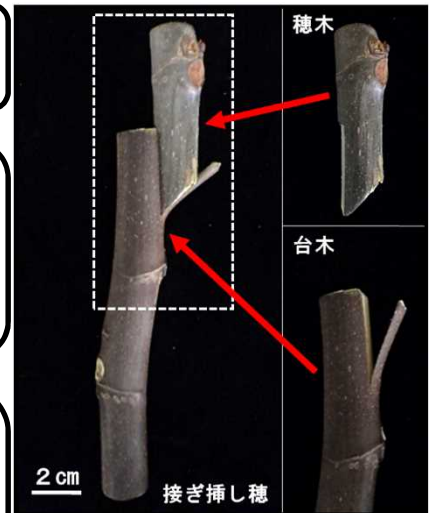


図1 接ぎ挿し穂の作成



図2 加温ハウスでの育苗

表 加温と接ぎ挿し時期が「ジディ」台「樹井ド-フィン」苗の生育に及ぼす影響(2022年)

加温	接ぎ挿し時期	新梢長 (cm)	節数	新梢基部径 (mm)	成苗率 (%)	得苗率 ^z (%)
有 ^y	1月上旬 ^x	170	34.1	15.8	100	92
無	3月下旬	114	25.5	14.1	100	92

^z 新梢基部径10mm以上の苗の割合

(調査日: 11月28日)

^y 接ぎ挿し後、日中20～30℃、夜間18℃以上で、約2.5か月間、加温管理、その後無加温管理

^x 試験では1月1日に実施

^w t検定により**は1%水準で有意差あり(n=12)

【技術の活用】

本技術を用いて作成した接ぎ木苗は、連作などで樹勢低下が見込まれる圃場での植栽を推奨します。想定よりも強勢に育成した場合は、間伐して樹冠を拡大するなどの対応が必要です。

